

[プログラム]

第1日 / 2022年5月7日(土)	
12:30~13:00 (30分)	受付
13:00~13:30 (30分)	事務連絡、開会挨拶 【司会】吉田 真由美 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事、(株)ノーザンホースパーク顧問)
13:30~14:00 (30分)	講義① 「スポーツ・コンプライアンスの理念と教育」 武藤 芳照 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構代表理事、東京大学名誉教授)
14:00~14:30 (30分)	講義② 「アンチ・ドーピング教育の推進ー検査よりも先に教育経験を！ー」 室伏 由佳 (順天堂大学スポーツ健康科学部講師、女子ハンマー投げ日本記録保持者)
14:30~15:00 (30分)	講義③ 「ガバナンス・コード遵守の目標と課題」 生田 圭 (弁護士、日本スポーツ仲裁機構 仲裁調停専門員)
15:20~15:50 (30分)	講義④ 「学校運動部活動のコンプライアンス違反の背景と予防教育」 工藤 保子 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事、大東文化大学准教授)
15:50~16:20 (30分)	講義⑤ 「障がい者スポーツにおけるコンプライアンス違反事案と問題点」 中森 邦男 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事、日本パラスポーツ協会 JPC 参事)
16:30~17:20 (50分)	「グループワーク」 【進行役】吉田 真由美(スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事、(株)ノーザンホースパーク顧問) 近年の各種コンプライアンス違反事例について、それぞれの特徴、発生要因と背景、事後対応、再発防止、今後の指導・教育のあり方等についてファシリテーターの指導・助言を参考にしながら、討議、発表、意見交換等を行う。 【ファシリテーター(指導・助言役)】機構の理事・監事及び外部専門家
17:30~19:00 (90分)	情報交換会

第2日 / 2022年5月8日(日)	
8:40~9:00 (20分)	受付
9:00~9:30 (30分)	講義⑥ 「体罰・暴力・ハラスメントの法律的論点」 櫻井 康史 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事・事務局長、弁護士)
9:30~10:00 (30分)	講義⑦ 「SNSによる誹謗中傷事案の概要と対策」 増島 みどり (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構業務執行理事、スポーツライター)
10:00~10:30 (30分)	講義⑧ 「コンプライアンス違反記事の収集・分類の試みと国内違反記事の主な特徴」 鈴木 漠 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構教育・研修部長)
10:30~11:00 (30分)	講義⑨ 「スポーツ団体における不適切な事案の事後対応」 上柳 敏郎 (スポーツ・コンプライアンス教育振興機構副代表理事、弁護士)
11:15~12:05 (50分)	筆記試験 (開始 30 分後から退出可能)
13:00~13:30 (30分)	総合質疑・討論 (両日の講師・ファシリテーター参加)
13:30~14:00 (30分)	事務説明、アンケート記入、閉会の辞、修了証交付、解散

※ 当日、諸般の事情により講師・プログラム等が変更されることがあります。

連絡・問合せ先

一般社団法人 スポーツ・コンプライアンス教育振興機構 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-24-16 平和ビル7F
Tel: 03-5521-2205 (火曜日 9:30~17:30) Fax: 03-3581-2210 / E-mail: info@spo-com.org (担当: 加賀原)

2022/5/7~5/8

一般社団法人 スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

スポーツ・コンプライアンス ・オフィサー

第4回 養成講習会のご案内

～時代が求める新たな人材育成プログラム～



[開催概要]

目的: スポーツ界のコンプライアンスの徹底を図り、スポーツの価値と力を守り育むための教育・啓発活動を担う専門的人材を養成する。

日時: 2022年5月7日(土)・5月8日(日)

会場: 学士会館 (〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28)

主催: 一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構

募集人数: 100名 (2021年4月1日時点で満18歳以上で、スポーツ・コンプライアンス教育の普及・啓発に関心を有する者)

受講料: 33,000円 (消費税込/受講費、資料代、審査・認定料を含む) ※事前振込です。

募集手続: ① 本機構ホームページ (www.spo-com.org) 内に記載の「専用フォーム」より、所定事項を入力してお申込み下さい。
(定員100名、キャンセル待ちは20名、計120名に達し次第、締め切ります。)


② お申込受け付け後、メールにて受講案内・受講料の振込方法等をご案内いたします。


認定: 所定の講義を全て受講し、認定試験に合格した者に、本機構より認定証を授与する。(資格の有効期限は4年間)




※ ロゴマークおよび「SPORTS COMPLIANCE」、「スポーツ・コンプライアンス・オフィサー」は、一般社団法人スポーツコンプライアンス教育振興機構の登録商標です。


[講師略歴及び各講義等の主な内容]


講義 ①	スポーツ・コンプライアンスの理念と教育
	<p>武藤 芳照 (むとう よしてる)</p> <p>スポーツ・コンプライアンス教育振興機構代表理事。東京健康リハビリテーション総合研究所所長。東京大学名誉教授。</p> <p>〔略歴〕名古屋大学医学部卒業。整形外科医・スポーツ医として五輪水泳チームドクター、国際水泳連盟 (FINA) 医事委員等を長年務めた。東京大学教育学部長、同大理事・副学長、日体大総合研究所所長等を経て、2018年4月より現職。スポーツ医学、身体教育学の立場から、健全なスポーツの普及・振興や高齢者の転倒予防等に関する教育・研究・実践活動に従事。少林寺拳法連盟顧問、日本学生野球協会理事。</p> <p>〔講義概要〕スポーツ・コンプライアンスとは何か？それを普及するためにはどのような理念で、どのような内容で教育・啓発していくべきか。古今東西の様々な事例や文献などを参照しつつ実践し、スポーツの価値力を守り、信頼を高める方向性を概説する。</p>


講義 ②	アンチ・ドーピング教育の推進－検査よりも先に教育経験を！－
	<p>室伏 由佳 (むろふし ゆか)</p> <p>順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授、株式会社 attainment 代表取締役。</p> <p>〔略歴〕1977年生まれ。スポーツ健康科学博士。陸上競技女子ハンマー投の日本記録保持者(2021年11月現在)、女子円盤投の元日本記録保持者。2004年アテネオリンピック女子ハンマー投げ日本代表。2012年に競技を引退。現在、順天堂大学でスポーツと医学・アンチ・ドーピング教育、スポーツ心理学を中心に教育・研究活動を行っている。</p> <p>〔講義概要〕2021年に世界アンチ・ドーピング規程 (2021Code) が改定された。2021Codeでは教育に関する国際基準が新策定され、基本原則には「アスリートのアンチ・ドーピングに関する最初の経験はドーピング検査ではなく、教育を通じて行われるべき」と定められている。「検査があるから薬に気をつけよう」の教育から、スポーツの価値を認識し、アスリートが自らルールを守り行動できるための教育が求められる。アスリートの教育経験などの調査研究も交え概説する。</p>


講義 ③	ガバナンス・コード遵守の目標と課題
	<p>生田 圭 (いくた けい)</p> <p>生田総合法律事務所・弁護士。公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 仲裁調停専門員、一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) 監事。</p> <p>〔略歴〕慶應義塾大学経済学部卒業。University College London (LLM) 卒業。White & Black Limited (Oxfordshire)、Sport Resolutions (London) 在席。Birkbeck College, University of London 卒業 (Postgraduate Certificate in Sport Governance)</p> <p>〔講義概要〕「スポーツ団体ガバナンスコード」は、スポーツ団体が適切な組織運営を行う上での原則・規範を示すものである。同コードの目的及び内容を説明するとともに、遵守する上での課題についても言及する。</p>


講義 ④	学校運動部活動のコンプライアンス違反の背景と予防教育
	<p>工藤 保子 (くどう やすこ)</p> <p>大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授、スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事、笹川スポーツ財団特別研究員。</p> <p>〔略歴〕鹿屋体育大学体育学部卒業、同大学院体育学研究科修了、体育学修士。スポーツ社会学を専門とし、公益財団法人笹川スポーツ財団に26年間勤務し、2017年4月より現職。主な研究テーマは、スポーツ人口、子ども・女性のスポーツ、スポーツボランティア。</p> <p>〔講義概要〕スポーツ・コンプライアンスについて、スポーツ選手、コーチ・指導者、児童・生徒・学生、一般市民等に、どのような素材とデータを用いて、どのような表現と教育方法・内容・カリキュラムで教育していくのか、事例・資料・エピソード等を紹介しつつ、その教育のあり方を探る。</p>

講義 ④	障がい者スポーツにおけるコンプライアンス違反事案と問題点
	<p>中森 邦男 (なかもり くにお)</p> <p>日本パラスポーツ協会 JPC 参事、スポーツ・コンプライアンス教育振興機構理事。</p> <p>〔略歴〕1953年大阪府出身。大学卒業後、大阪市のスポーツセンターで指導員として障がい者に水泳を教え、日本障がい者水泳連盟の設立にも関わる。以後も、障がい者スポーツ発展のために尽力。日本障がい者スポーツ協会の強化部長と、JPC (日本パラリンピック委員会) の事務局長を兼任。ロンドンパラリンピックでは日本選手団の団長も務めた。</p> <p>〔講義概要〕障がい者スポーツにおける実際のコンプライアンス違反事案の概要を示しつつ、その問題点を示す。</p>

講義 ⑥	体罰・暴力・ハラスメントの法律的論点
	<p>櫻井 康史 (さくらい やすふみ)</p> <p>晴海パートナーズ法律事務所、弁護士。日本サッカー協会 仲介人。日本スポーツ法学会 会員。全国倒産処理弁護士ネットワーク 会員。</p> <p>〔略歴〕早稲田大学法学部卒業。中央大学大学院法務研究科修了。</p> <p>〔講義概要〕スポーツにおいて未だ根絶がなされない体罰・暴力・ハラスメントの問題について、法律家の観点から、法律問題等について具体的に解説をする。</p>

講義 ⑦	SNS による誹謗中傷事案の概要と対策
	<p>増島 みどり (ますじま みどり)</p> <p>スポーツ・ライター、スポーツ・コンプライアンス教育振興機構業務執行理事 / The Stadium 取締役、法政大学スポーツ健康学部講師。</p> <p>〔略歴〕学習院大学法学部卒業。スポーツ紙記者を経て、フリーのスポーツライターに。長年、五輪やプロ野球、サッカーのワールドカップ等、数多くの国内外のスポーツ現場の取材を精力的に行い、多数の著作を世に出す。『6月の軌跡』(文芸春秋)でミズノ・スポーツライター賞受賞。</p> <p>〔講義概要〕昨今、社会的問題にまでなっている SNS によるコンプライアンス違反。その実態と背景、問題点並びに予防のための具体的対応等について概説する。</p>

講義 ⑧	コンプライアンス違反記事の収集・分類の試みと国内違反記事の主な特徴
	<p>鈴木 漠 (すずき ひろし)</p> <p>スポーツ・コンプライアンス教育振興機構教育・研修部長。日本体育・スポーツ政策学会顧問。</p> <p>〔略歴〕東京教育大学体育学部卒業。山形県教委指導主事、旧文部省専門職員、和歌山県教委保健体育課長、旧文部省 (教科調査官・登山研修所長・体育官・視学官)、国立大隅少年自然の家所長、金沢大学教授、山形大学地教文化学部副学部長、帝京大学教育学部学科長を務めた。その間、体育・スポーツ行政、社会教育、教員養成等に従事。2019年4月より現職。</p> <p>〔講義概要〕新聞やインターネット等に掲載されたスポーツ・コンプライアンス違反記事を収集し、①体罰・暴力・暴言、②ハラスメント、③ドーピング、④パラ・ドーピング、⑤八百長・不正行為・悪質違反等の視点で分類する試みを紹介する。併せて、国内の違反記事に見られる主な特徴などについて解説する。</p>

講義 ⑨	スポーツ団体における不適切な事案の事後対応
	<p>上柳 敏郎 (うえやなぎ としろう)</p> <p>東京駿河台法律事務所、弁護士。スポーツ・コンプライアンス教育振興機構副代表理事。公益財団法人日本スポーツ仲裁機構執行理事。</p> <p>〔略歴〕東京大学法学部卒業。ワシントン大学 (米国シアトル) ロースクールLLM修了、米国ニューヨーク州弁護士登録。東京大学大学院修士課程修了、法学修士。現在、国際水泳連盟ドーピング審査委員、日本水泳連盟監事、日本ヒューマン・ライツ・ウォッチ協会代表理事。</p> <p>〔講義概要〕スポーツ競技団体のコンプライアンス違反、法令違反の事案が生じた際に、いかに迅速・適切な対応を取るかが問われている。平成29 (2017) 年度スポーツ庁委託事業で本機構が実施した調査研究事業の成果内容や実際の不適切事案への対応例を紹介しつつ、それらの適切な対応方法、内容について、法律家の立場から解説する。</p>

グループワーク	
	
<p>グループワークは、共通の目標の下、参加メンバー相互が話し合い、ファシリテーター (指導・助言役) の支援を得つつ、意見・情報・経験の交流を通じて、一人ひとりの参加者が成長、発展を目指す学習方法です。スポーツ・コンプライアンスに関する課題解決能力の向上を目標とし、与えられた資料、素材、事例を基に話し合いを進め、グループとしての意見をまとめ、発表し合い、全体としての学習成果を共有します。</p>	